

学会通信 19号

1999年10月20日発行

温故知新 - - 嵐の中の第6回大会 - -

会長 中野 照海 (国際基督教大学大学院教授)

第6回大会の内容や運営が、嵐のように波乱万丈だったわけではない。9月24日の午後から25日、26日にかけて、金沢大学教育学部附属小学校と金沢経済大学で行われたが、大会の初日が大型台風の通過に当たったからである。24日正午頃から、北陸地方を直撃した台風によって、金沢への空の便も、鉄道も運休となった。或る発表者は、東京から名古屋まで来たが、その日のうちに金沢に着くことができなかつたし、シンポジウムの登壇者は、始まりの15分前にやっとたどり着いたという。しかし、幸いなことに、32件の自由研究発表、16件の課題研究発表、そして、2つのシンポジウムの9人の発表が滞りなく行われた。悪条件の中で大会運営に当られた吉田貞介金沢大学教授、岡部昌樹金沢経済大学教授をはじめとする関係者のご努力があつたことである。

次の便からすべて欠航という東京 - 小松間の1時間の飛行は揺れに揺れた。機中で津本陽『加賀百万石』を読んでいた。これによると、前田家二代目の利長は、江戸への旅に19日間をかけている。先発した村井又兵衛一行は、積雪に悩まされながらも、9日間で江戸に到着している。大名行列でなく、普通に旅をすれば、金沢 - 東京間は、およそ9日行程だったのであろう。現在の東京 - 小松間の1時間というのは、百万石の殿様でも出来なかつた贅沢?であらう。しかし、いずれが良いかを決めるのは難しい。江戸から9日間をかけて金沢へ行き、3日間の学会に参加して、9日間をかけて江戸へ帰って来る方が楽しいかもしれない。少なくとも、「ご気分の悪い方は、座席前の袋を早目にご用意下さい」という機内アナウンスを聞かなくてもよいだけ幸せである。

今年度の大会の特長は、ネットワークの教育利用、放送のデジタル化、映像の教育的意義、そして、総合的学習における映像利用にあつたということができよう。それに、若い研究者の参加が目だったことである。これは、学会に活力を与えるものである。懇親会のそこそこで、「学会が若返って、元気になったようだ」という会話が聞えてきた。これが自画自賛にならないように、今回の勢いを、今後に繋げたいと思う。特に、若い人びとに魅力のある学会にするにはどうするかが重要な課題である。

視聴覚教育や放送教育が教育革新を一手に担うという隆盛の時代があつた。しかし、そ

の惰性や懐旧趣味では、わが教育メディア学会の活性化は望めない。隆盛の頃にも、視聴覚教育や放送教育が取り組んでいた研究や実践の課題は多かった。これらの課題が、既に解決されたとも思えない。映像の高次知的過程における役割、映像の情動への効果などは、やり残した課題であり、現代的な課題でもある。マルチメディア流行りであるが、これの開発と活用による発散的思考の育成、自主的学習能力の形成、研究者と実際家との協力の在り方なども、教育的で、挑戦的な課題である。前田利長や利光の旅を飛行機の中で読みながら浮んできたのは、「温故知新」のことばである。

年次総会における報告と承認事項を公示致します。……（事務局）

1999年9月現在の会員現況

学会名を改めたことと1999年度会員名簿の発行を機会に、会費の滞納が5年以上にわたる会員と長期にわたって連絡がつかない会員の除籍を行ないました。その結果に昨年10月以降に入会された方々22名を加え、また退会された方々を差引くと、1999年8月末日現在の会員総数は都合382(433)となり、地区別・会員種別毎の内訳は下表のようになりました。（加コ内は1998/10現在数）

来世紀に向けて会員数を増やすため、皆様の一層のご協力をお願い致します。

	名誉会員	正会員（昨年）	学生会員	団体会員	購読会員
北海道・東北		20 (21)	6 (5)		(1)
関東	3	197 (220)	3 (4)	7 (7)	1 (0)
中部		43 (48)			1 (1)
近畿		50 (66)	9 (8)		1 (2)
中国・四国	1	19 (25)	1		
九州		19 (23)			
海外		5 (2)			
	4	353 (405)	19 (17)	7 (7)	3 (4)

1998年度及び1999年度前半期の活動

以下に示す会議、会誌および機関紙の発行、研究会の開催等を行ないましたので、列挙して報告致します。（*は1998年度に実施）

- ・第5回大会 10月24～25日に東京情報大学において開催
- ・編集委員会 大会前日午後、東横イン千葉駅前会議室において開催

- ・ 理 事 会 大会の前夜に、東横イン千葉駅前会議室において開催

- ・ 常任理事会
 - * 98年4月11日 東京学芸大学：学会名改称の準備と第5回大会の打ち合せ
 - * 98年9月12日 東京学芸大学：定例理事会開催の準備
 - * 99年1月9日 東京学芸大学：学会名改称に伴い、会則および規定の見直し作業と、学会の運営について
 - 99年4月24日 東京学芸大学：第6回大会の打ち合せ
 - 99年9月4日 東京学芸大学：定例理事会開催の準備

- ・ 在京編集委員会
 - * 98年4月11日 東京学芸大学
 - * 99年1月9日 東京学芸大学
 - * 99年3月27日 東京学芸大学
 - 99年9月4日 東京学芸大学

- ・ 『教育メディア研究』の発行
 - * 教育メディア研究第4巻第1号（98年3月に、97年12月付で発行）
 - * 教育メディア研究第4巻第2号（98年6月に、98年3月付で発行）
 - 教育メディア研究第5巻第1号（98年12月発行）
 - 教育メディア研究第5巻第2号（99年3月発行）

- ・ 学会通信の発行
 - * 学会通信 14号 98年4月28日発行
 - * 学会通信 15号 98年 9月1日発行
 - * 学会通信 16号 98年11月16日発行
 - * 学会通信 17号 99年 3月1日発行
 - 学会通信 18号 99年5月14日発行

- ・ 研究会の開催
 - * 98年4月2日 メディア教育開発センター
教育テレビ番組を生徒と教師はいかに受容するか
 - * 98年7月4日 関西大学 メディアを用いた豊かな学習環境のデザイン
 - * 98年12月12日 金沢大学 総合的学習と視聴覚メディア
 - 99年4月10日 日本大学 教育メディア研究の今後の方向を探る
 - 99年7月19日 日本大学 視聴覚教育という言葉について

・ホームページの開設

98年春以来久保田会員（関西大学）のご好意で研究会のホームページを開設し仮運用をしておりましたが、本年5月中旬から学術情報センターのサーバーに本学会のホームページを開設し、下記のURLにより運用しております。なお、研究会代表、編集委員会代表、事務局代表からなるホームページ管理運営委員会を組織し、運営にあたります。

URL <http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jaems/>

1998年度（1998年4月1日～1999年3月31日）の会計報告

一般会計収支決算

・収入

1997年度からの繰越		1,931,996
入会金		20,000
会費（1999年度分）	109件	757,000
（1998年度分）	270件	1,863,000
（過年度分）	68件	455,000
98年度団体会費	7団体	350,000
利子		1,254
雑収入		160,000
	計	5,538,250

・支出

	（予算額）	支出
郵便料	（300,000）	258,830
消耗品費	（60,000）	112,951
会合費	（150,000）	38,850
アルバイト費	（120,000）	140,000
印刷費	（400,000）	169,995
大会開催費	（400,120）	400,140
学会誌出版費	（1,100,000）	461,475
交通費	（150,000）	96,640
研究会開催補助	（60,000）	0
返金		27,000

計	(2,740,120)	1,705,881
1999年度へ繰越		3,832,369
総計		5,538,250

消耗品費の支出が予算額の2倍弱になったのは学会の名称変更に伴う用品等の整備のため、また学会誌出版の支出が予算額の42%に留ったのは、4巻2号のみの印刷費支出であったため、予算全体としての執行率は62%であった。

坂元彦太郎記念教育メディア研究奨励賞特別会計収支決算

授賞該当者が無かったため支出せず 残高(利子を含む) 801,348

1999年度(1999年4月1日~2000年3月31日)の予算

・収入:

98年度からの繰越金		3,832,369
個人会員会費(目標納入率を75%~80%として)約		1,100,000
団体会員会費	7団体	350,000
購読会員会費	3機関	21,000
雑収入		200,000
計		5,503,369

・支出:

	予算額
郵便料	300,000
消耗品	60,000
会合費	150,000
アルバイト費	120,000
印刷費	250,000
大会開催費	400,630
学会誌出版費	1,200,000
交通費	150,000
研究会開催経費	60,000
計	2,690,630
予備費	2,812,739
総計	5,503,369

注 学会通信の発行（3回）+ 名簿の発行
会誌の発行（2回）
これらの配布に要する郵送料

坂元彦太郎記念教育メディア研究奨励賞特別会計予算

1998年度からの繰越し（含利子）	801,348
1999年度研究奨励賞金	100,000
予定残高	701,348

2000年度の日本教育メディア学会大会について

明年度は教育工学関連の他の学会・協会と3年毎に大会を共催する年に当たりますので、日本教育メディア学会単独では大会は開催せず、教育工学関連学・協会連合大会を下記により共催致します。

日 時：2000（平成12）年10月7日（土）～9日（月）
会 場：鳴門教育大学（徳島県鳴門市）

1999年度第3回研究会開催のお知らせ

日 時：1999年12月11日（土）午後1時～4時30分
会 場：金沢経済大学（金沢市御所町丑10番地）講義棟

（先の日本教育メディア学会第6回大会の会場と同じ場所で、金沢経済大学のホームページ

<http://www.kanazawa-eco.ac.jp> に 詳細地図が掲載されています）

企 画：岡部 昌樹氏（金沢経済大学） 黒上 晴夫氏（金沢大学）
テーマ：校放送番組と学習環境

第 部 放送と通信の融合時代を向かえ、これまでの学校放送番組が果たしてきた教育的役割について、番組製作者及び利用者の側から総括する。

第 部 ATMの変換技術や光ファイバーの伝送技術の飛躍的進歩がどのように学校放送のありようや学習者のメディア環境を変えつつあるのかという

ことについて、内外の情勢も踏まえて、近未来を展望する。

発表者の募集について：

募集件数 第 部 3 件程度
 第 部 3 件程度

発表者として応募なさりたい方には、下記指定の書式で論文を作成して提出していただきます。原稿見本等を送付しますので、連絡先を明記願います。

申し込み締切日 1 1 月 6 日（木）

原稿提出締切日 1 1 月 3 0 日（火）必着

書 式 学会誌「教育メディア研究」におおむね準拠する。
 B5 版 2 段（間隔 7 ミリ） 余白（左 2 8 ミリ、左、右、
 下 2 3 ミリ）
 書体明朝 9 ポイント 2 0 文字 × 4 2 行
 和文英文表題・名前・所属・要約・キーワード
 枚数 6 ~ 8 頁（偶数）

なお、論文は日本教育メディア学会研究会で編集し、『日本教育メディア学会研究会論集』（ISSN 1 3 4 4 - 8 1 5 3）第 3 号として刊行を予定しています。

問い合わせ及び発表等申込先：

担当委員 岡部 昌樹氏 金沢経済大学
〒9 2 0 - 8 6 2 0 金沢市御所町丑 1 0 番地
TEL & FAX 0 7 6 - 2 5 3 - 3 9 6 6
E-mail okabe@kanazawa-eco.ac.jp

1 9 9 9 年度『坂元彦太郎記念教育メディア研究奨励賞』受賞者 決まる！

かねてより坂元賞選考委員によって選考作業が行なわれておりましたが、その結果がまとまり、9 月 2 4 日の理事会に報告、決定承認され、同 2 6 日の総会で報告と研究奨励賞の授与が行なわれました。

受賞者 西森章子会員（大阪府立大学）

授賞の根拠となった論文：映像メディアの利用による学習指導法に関する研究

『教育メディア研究第 4 卷

第 1 号』に掲載

『坂元彦太郎記念教育メディア研究奨励賞』(略称「坂元賞」)は、本学会の前身である日本視聴覚教育学会及び日本放送教育学会への坂元彦太郎氏の貢献を讃え、ご遺族からの寄贈による基金をもって教育メディア研究の奨励を行うものです。

毎年、学会員が発表した教育メディアに関する優れた研究論文等1件に対して、原則として10万円が授与されます。候補論文等は、前年度の学会誌『教育メディア研究』、大会論文集及び研究会論文の中から学会員が推薦します。共同執筆論文の場合は学会員が筆頭執筆者であることが必要です。推薦は、論文に候補論文執筆者並びに推薦者の氏名・所属・連絡先及び推薦の理由等を添えて提出して行ないます。推薦締切は毎年6月末で、選考は理事会から委嘱を受けた若干名の会員による坂元賞選考委員会が行い、結果を理事会に報告します。理事会は選考委員会の報告に基づいて受賞者を決定し、年次大会時の総会に報告し授賞の運びとなります。

編集委員会からの報告とお願い

1998年度の『教育メディア研究第5巻』1号および2号の発行が非常に遅れましたことを先ずお詫び申し上げます。大会に先立つ10月24日「RKKホテル金沢」において編集委員会を開催し、次の(1)(2)について協議決定致しましたので報告致します。なお、投稿原稿は常時受け付けておりますので、積極的にご投稿下さいますようお願い致します。

(1)学会誌「教育メディア研究」の編集及び発行計画

第6巻第1号

- ・編集方針：第6回大会での発表者の論文を主とする「年次大会特集号」とする
- ・投稿締切日：平成11年10月末
- ・発行時期：平成12年1月末日
- ・原稿の枚数：学会誌刷り上がりページ数で4，6あるいは8ページとなる分量。

但し他については投稿規定(学会誌表紙裏および先に配布した会員名簿に掲載)に準拠のこと。

第6巻第2号

- ・編集方針 投稿及び依頼原稿による
- ・投稿締切日：平成11年12月20日
- ・発行時期：平成12年3月末日

投稿なさる方は、先に配布した会員名簿に綴じ込まれている投稿規定を参照してご準備願います。同じく綴じ込みの投稿票を使って、題目を学会事務局まで早目にお知らせ願います。

(2)特集テーマの募集

『教育メディア研究第4巻第2号』では「大学における視聴覚・放送メディアの利用の現状と課題」を特集し、また、第6巻第1号は「年次大会特集号」として発行する方針が決まりましたが、その後も「生涯学習社会」「授業設計」「授業評価」「マルチメディア」「インターネット」「総合的な学習」「学習環境」「視聴覚教育メディア」「放送メディア」「デジタル化」「メディアの融合」等をテーマとして特集を組むことも考えおり、広く皆様からテーマを募集致しますので編集委員会事務局宛てにお寄せ下さい。

(編集委員長 堀江 固功)

会費納入に際してのご注意とお願い

会費の納入をお忘れの方には、本号送付の封筒のアドレスラベルに該当年度が西暦下2桁の数字で表示してあります。なお、過年度分の納入が2年以上滞っている方には『教育メディア研究』の配布を停止しており、遅れて会費を納入なさっても自動的にバックナンバーの配布は致しておりませんので、配布を受けて居られない巻号を明示して、事務局宛て配布請求をなして下さい。

1999年度版会員名簿の記載事項の訂正等について

校正が不徹底であったため記載事項に若干の誤植が見つかりましたが、訂正は纏めて次号の『学会通信20号』に掲載致しますので、訂正、変更などのある方は事務局までお知らせ願います。

また、来年6～7月は理事の改選期に当たり、地区毎の正会員を選挙人・被選挙人として郵便投票により選挙を行ないます。その為、会員名簿を基礎として選挙人名簿を作成しますので、明年4月の時点で所属あるいは住所に変更が生じた場合、必ず学会事務局までご通知下さい。

会員を増やすためにご協力を！

会員現況の報告でもふれましたが、減少した会員数を元に戻して学会を益々発展させるために、会員の皆様の積極的なご支援を賜わりたく、活動的な研究者や教育実践者を新しい会員としてお誘い下さいますよう、お願い致します。

1999年版の会員名簿に正会員/学生会員用、団体会員用、購読会員用の入会申込書様式が綴じ込みになっていますので、コピーしてお渡し下さい。

入会申込書が事務局に届き、入会金（2千円）と当年度の会費（正会員＝7千円，学生会員＝4千円，団体会員5万円，購読会員＝7千円）の入金が確認されたら入会手続きが完了します。なお学部学生と博士前期（修士）課程学生は、在学証明書（あるいは学生証のコピー）を提出した場合、学生会員となることができます。

『視聴覚教育研究』『放送教育研究』の献本について - お知らせ

本学会の母体であった日本視聴覚教育学会の会誌と日本放送教育学会の会誌のバックナンバーを、ご希望の研究機関あるいは図書館に贈呈いたしますので、ご関心をお持ちの方は学会事務局までご連絡下さい。

日本教育メディア学会 事務局

〒181-8585 東京都三鷹市大沢 3-10-2

国際基督教大学視聴覚教育研究室内

電話：0422-33-3050

FAX：0422-33-3116

E-メール：ishimoto@icu.ac.jp

URL：<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jaems/>